

ご あ ん ない

平成24年度 総会

●日時・場所／5月19日(土)

*記念講演 午後1時 = 母校視聴覚室

講師 人間国宝 桂 盛仁氏 (昭和39年・A科卒)

演題 私の仕事

*総会・懇親会 講演後 = 視聴覚室・会議室

●会 費／3,000円 (なるべく同封振替用紙でご送金をお願いします)

◆出席のご連絡は、必ず5月12日までに各科の理事までお願いします。

桂 盛仁さんは日本伝統工芸展等で数々の賞を受賞され、平成20年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。現在、神戸芸術工科大学、東北芸術工科大学、金沢美術工芸大学等で教鞭を執られている他、公益社団法人日本工芸会 日本伝統工芸展鑑査員等、数々の要職を務められている日本工芸界の重鎮です。今回は、「彫金について一室町時代から現在一」についてご講演いただきます。どうぞご期待下さい。



工芸げい

誠実
元気
信愛
規律

●新年度を迎えて

学校長 松本 光正

昨年の4月に着任し、1年が経ちます。この間、東日本大震災に伴う節電を始めとする復旧・復興に向けた状況の中、10月末の工芸祭では2日間で5700名の方に来校していただき盛況のうちに終了しました。また、厳しい就職状況の中で就職内定率100%を実現できたとともに、美術系大学を始めとして専門性を生かした進路実現の達成など、全定ともに活気ある教育活動を展開できました。本校の最大の特徴は、学校の外部の方と連携した教育活動が活発に実践されていることです。大学と連携したデッサン講習会やポートフォリオ講習会を始め、本校の同窓生とのつながりにより専門性を深める事業に多くの生徒が積極的に参加しています。また、本校出身の人間国宝の方などを講師に招いたものづくり講座も多く開講されており、生徒にとって専門分野の奥の深さを実感できるものです。早い時期から、感性を磨き、優れた技術を育てることは、本校にとって大きな課題です。今後とも、本校の教育活動に対して変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

プラスチック
金型製作

真空成型型
プレス抜型

圧空成型型
トムソン抜型

企画
デザイン

試作 — 本型製作 — 成形立上げ

V.MOLD バキュームモールド工業株式会社

本社・〒131-0031東京都墨田区墨田5-23-11

tel 03(3614)1556 fax 03(3614)1559

埼玉工場・〒340-0831埼玉県八潮市南後谷107-5

tel 048(932)5440 fax 048(932)3960

-詳しくはホームページで-

<http://www.vmold.co.jp/>

e-mail

caduser@vmold.co.jp

宝石・石止全般

株式会社 タカギ彫金工芸

代表取締役
高木

実

(A・48卒)

〒111-0054 台東区鳥越1-23-5

電話(03)3866-0961(代)

事務局より

◎一般寄付・ご芳名

昨年12月14日以降、本年3月23日現在、ご芳志をお寄せいただいた方々は次の通りです。どうも有難うございました。(順不同・敬称略)

伊藤脊、石黒賢一、新井裕子、日置雄毅、水溜紫乃、村木喜貞、井沢保夫、大林真理子、後藤新太郎、新井昇、天川博邦、細江幹夫、伊藤早苗、西本誠一、細江邦雄、原正美、木下幸秀、山下泰宏、姉小路幸男、吉田稔、中村保弘、恩田隆志、高井英一、橋本恵光、藤井喜代子、山田幸継、内山孝、木村

明、中村輝雄、中村源次郎、浅井将治、穴吹昭勝、石川孝史、松本誠司、高橋雄作、田中栄一、川津敬介、関根伸司、須永栄一、亀井格一、石井清一、黒木賢治、村山喜久、岩崎龍二、山崎真子、柴田良雄、田中隆、小川衛、清水健敬、丸山士郎、原典生、磯茂乃、平野堯久、大島実、田代智隆、山田肯佑、年見昭彦、江連仁人、西尾和男、五十嵐賢治、木口克行、鈴木秀晴、小山幸夫、建入泰治、星野喜一、佐竹進、井上文雄、矢澤光夫、北澤長治、石井孝、川瀬求女、中野清、村奈嘉義雄、小林久展、大井三喜男、竹内浩、中尾正直、小野尚士、後藤武敏、安藤昌二、打越長武

平成23年度累計

五八九、四六〇円

●FII科平成24・25年度役員について

平成24・25年度のFII科の役員に変更がありました。新体制の役員は左記の方々です。

副会長

中丸 啓(昭30)

理事

森谷 延周(昭32)、工藤 精一(昭36)、関 公宇(昭39)、桜井 洋一(昭43)、池田 成孝(昭60)、伊東 久江(昭60)、岡田 里美(平1)、佐藤 貴志(平1)、坪井 裕(平2)、宮田 潤一(平2)、久保田 晃(平5)、久保田真奈美(平5)

信頼の
クリエイティブワークス
株式会社 シグナム

CREATIVE PRODUCTION
Signum

相談役
大鳥身吉

160-0022 東京都 新宿区 新宿 2-3-12
グレイスビル 4F Tel. 3341-4976

広告制作会社 たきグループ

TAKI GROUP

株式会社 たき工房
本社 〒108-0023 東京都港区芝浦3-14-1 インパクトビル3F
TEL03-5484-6400(代) <http://www.taki.co.jp>

- (株) たき工房
- (株) インパクトたき
- (株) 日本コマーシャルフォト
- (株) ワークアップたき
- (株) タクト
- (株) Odds Design
- (株) ブラン
- (株) たきC1
- (株) たきホールディングス

グループ創業者 滝澤方美 D3(昭29)

津久井正幸先生 安らかにおやすみ下さい

60年という長い間、築地工芸会を背負ってこられた津久井正幸先生が、平成24年2月2日にご逝去されました。通夜・告別式は、2月8日・9日に芝・天陽院で執り行われ、多くの同窓生が参列し、ご冥福をお祈りしました。津久井先生、天国で安らかにおやすみ下さい。本当にありがとうございました。

津久井さんとの思い出

会長 細江 邦雄（昭41・M卒）

津久井先生との出会いは、築地工芸会の理事になってからで20数年になると思います。当時の同窓会は事務局長の津久井さんにおんぶにだっこで局長なしでは始まらない状況でした。理事になった頃は直接話すことはなかったのですが、M科精機会の工場見学会でファナックや東海村原子炉施設にいっしょに行かれたときに話す機会があ

津久井先生と60年

安原 敏郎（昭18・A卒）

津久井先生の訃報を荒井会長から届けられお通夜・告別式には出席を予定していましたが、風邪のため両日とも出られず心残りでした。

後日ある工芸展で荒井会長と偶然お会いした際「こうげい」誌に先生の追悼文のご依頼があり、この小文となりました。思えば津久井先生とのお付

り、そのとき大学（理科大）も先輩／後輩の関係であることがわかり、より親しくしてもらおうようになりました。一番の思い出は、毎年8月頃に箱根の「峠の茶屋」で行っていた、理事に限らず工芸にかかわった人は誰でも参加できる懇親会のことです。現地集合現地解散の懇親会は40名以上集まることもあり、宴会は基本的に男ばかりなので当然に芸者さんかコンパニオンが同席することになって盛り上がり、必ずかなり延長になるので当然のごとく予算オーバーになりました。いつも津久井さんがかなりの部分を負担していました。津久井さんの体調が悪くなるまでずっと続いていたのですが、このような会は先生の人柄で集まっていたので、今後このような会はできないかと思うと寂しい感があります。天国で誰かが旗振り役をやり、続けられと云っているかもしれません……。

津久井先生との出会い

藤原 高遠（昭27・M卒）

合いは昭和27年に始めて総会でお会いして以来60年になります。当初は毎年の総会および10年毎の記念誌発行・祝賀会のお手伝いと年数回の理事会の出席等でした。なかでも吉浜寮跡地問題が工芸基金に結実するまでかなり長期間歴代校長・会長と共にご苦労されたこと、また年間を通しての会費管理・会報の編集・印刷・発送と一日中活動された日々を思い出し、感謝にたえません。本当に長い間ご苦勞様でした。安らかにお休み下さいと心から追悼致します。

昭和20年終戦の時、私は疎開先の三重県で小学校6年生でした。昭和22年、東京・本郷弓町に引越して都立工芸の新制中学2年に編入しました。

津久井先生の弟さんと学校でよくキヤッチボールをしました。校舎正面玄関の石段の側壁をバックにして私がミットを構える、投げ込んでくる2年上級の弟さんの直球は左の手の平が赤く腫れるほどの強さで、カーブやシュートは予告なしでは受取れないほどの切れが良い球でした。その弟さんがある時、校門から入って来た青年の手をとって来て『今度上の兄貴が定時制の理科教師になるんだ』と、とっても嬉しそうに誇らしげに話した顔を忘れません。

昭和23年に工芸が新制高等学校として発足する時に第二本科の非常勤講師から定時制の理科教師になった、私より10才年上のまだ20代の津久井先生でした。

後年私は大阪に転勤となり、そこで築地工芸会の地方支部「関西工芸会」に入りました。それから約50年も先生とお付き合いさせていただきました。ありがとうございました。

最後にお会いしたのは5年前の5月、母校の創立100周年記念祝賀会会場の東京会館でした。その年は1月に心臓血管外科で冠動脈のバイパス手術を受けた事もあり「関西工芸会の会長職を若い人に渡したい」と云ったら「まだ早い、あなたも十分まだ若い」と先生に云はれ、現在も頑張っています。



平成17年11月3日 第45回 関西工芸会の集い
(京都・高台寺・京浜作)

津久井先生の想い出

鈴木 慶一（昭27・F卒）

津久井先生と初めてお会いしたのは40周年工芸祭の頃かと思えます。その後定時制の教師の時、中庭のコートで先生と石引校長共にプレーを楽しんだ事を思い出します。

卒業後木香会で久し振りに元気な先生にお会いし学校の現状など熱心に話されています。平成3年築地工芸会々長に植野正清氏がなり、私も会の打合せ等の場が増え良きアドバイス頂きました。

その後新校舎完成時に頼まれた体育館の緞帳、新旧校舎の模型置台を関係者の協力を頂き、緞帳は校章の太陽の昇る柄取り、又旧校舎模型台（図書館設置）は各科の彩色に苦労しましたが頑張って頂きました。100周年記念行事として頼まれたのは昭和5年昭和天皇が行幸の時御使用された卓子、椅子の修復でしたが完了し感謝されました。都立工芸高校一筋、体調をくずさず最後まで最後まで強い責任感と配慮を持っ



て平成24年2月2日89才にて、永眠されました。

ご冥福を心より御祈りします。

津久井先生の想い出

中田 実（昭29・M卒）

津久井先生の死に対し謹んで哀悼の意を表します。私は昭和25年都立工芸定時制機械科に入学しました。学業はあまり好まなかったのですが、野球狂の時代でした。先生の授業は化学でした。先生とふれ合うのも野球部の監督としてが多かったです。

その年に東京都の定時制の野球大会が始まりました。工芸の野球部も参加し、準優勝をしました。（62年前）この時の話は最近も話題にしています。その頃は日曜日のほとんどが練習と試合でした。先生がその度に大量のパンを持って来て部員に喜ばれたのも



昭和27年春 工芸高校グラウンドにて
前列中央黒のコートが津久井先生
その左2人目が私（中田）

思い出します。後年、野球部も全国大会出場もあり、OB会も開かれ、私も誘われ参加し、昔話に花を咲かせたのも懐かしい思い出です。

私達のクラス会にも数度参加して頂きました。先生曰く「方々のクラス会に出るがこのクラスが一番酒量が多いな」と一言もらっています。又、母校の行事にも色々先生から声を掛けられ、私も顔を出すうちに築地工芸会の手伝いをする事になりました。でもあまり手助けにならない様でした。又、箱根の「山の茶屋」での一泊交流会も思い出として語り草になる事でしょう。謹んで御冥福をお祈り致します。

築地工芸会の百科事典の

ような存在でもあった

津久井事務局長を偲ぶ

石原 義久（昭30・P卒）

工芸家、画家、デザイナー等は、天職として生涯を全うするのはよく聞くところだが、元物理の先生が生涯を同窓会の事務局長として尽くされた津久井氏のような例は極めてまれであろう。しかも会員の意向を見事に配慮され、会員から頼りにされていた。

また、同窓会に関するあらゆる事にも熟知している上に資料の保存も豊富で、私が平凡社から『原弘 デザインの世紀』を出版した折には、府立工芸時代の古い写真資料を何点も提供して

いただけた。

思うに、津久井事務局長の長年にわたる悩みは吉浜寮跡地の売却であったろう。

私は昭和60年当時、吉浜寮の跡地をどうするか吉浜委員会委員長であったのだが、10年ほどかけてようやく跡地の売却にこぎつけた。

「工芸基金」の設立からその後の運営には津久井事務局長が熱心にかかわっていて、極めて充実した内容になっている。

津久井先生の想い出

佐々木 健（昭31・D卒）

2月の中頃、荒井前会長より前事務局長の計報を電話で知らされました。

半世紀以上の長きにわたり築地工芸会の要として公私を越えて会の発展に尽力されましたことに敬意の念と感謝を申しあげると共に心からご冥福をお祈り致します。

私は大野先輩が会長を務められていた頃先生のお手伝いをしていた時があります。当時四谷の私の事務所に度々お越しになられ機関紙「こうげい」の編集を一諸にやっていました。フォーマットに見出しや本文のレイアウトをし、又写真の選択やトリミングなどの作業をテーブルいっぱい広げ、先生は一流のエディターの仕事ぶりで互に意気投合したことを憶えております。

先生のこうげい編集政策は築地工芸会経営そのものです。各科・各界に広く繋がり情報とエネルギーを集めます。特に工芸会の長老やリーダー連とは強い信頼で結ばれ相互に積極的な交流が行なわれていました。私も身近にいて大へん勉強させていただきました。

その後このバトンはD科OBの坂野さん・大林さんへと移り編集内容も益々充実していきます。今春号こうげいは大判に進化しました。若い者達よガンバレ!と先生の声があふくような気がします。



D科の奮起に期待して (平成14年)

津久井正幸先生を偲んで

中山 清 (昭33・M卒)

長らく築地工芸会の事務局長としてお世話を戴いた津久井先生のご逝去の知らせをお聞きしたときは、ついにその日が来たかという思いをもちました

が、他にはなにも考えられずただ呆然としておりました。

先生が同窓会の仕事をやる切っ掛けになったのは、石引校長【注・石引一朗 第5代校長 (1946～1955)】の勧めがあったからであると話されたことがあります。

それから50年以上が経ち、本校は先年、創立百周年を迎えることができました。その間、先生はずっと記念行事に立ち会われてきました。百周年記念行事のときも、先頭にたつて指導して下さいましたので、ついつい私などは先生に任せておけば安心といった気持ちでいたことを反省しております。

先生には本校同窓会のために長い間お骨折りを戴きあげて下さった。先生が築き上げてこられた本会の灯りは決して消すようなことはなく、確りと引き継いで行きますのでどうか見守っていて下さい。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

津久井先生の思い出

五反田 稔 (昭35・M卒)

津久井先生との出会いは48年前の昭和39年、築地工芸会の地方支部「中京工芸会」の第1回の総会が名古屋の納屋橋「山翠楼」で開催された時でした。タイミングよく、私が愛知県に転職した時期でも有りました。一度覗いてみるか?という気持ちで参加したこと

が、出会いでした。

先生と歴代の大先輩が築いて頂いた「中京工芸会」です。東京に在住していたら工芸の大きさを知らずにいたかも知れません。

その後平成15年は、中京工芸会の「40回総会」でした。節目でもあり、少し豪華にということでも「岐阜 下呂温泉」で開催しました。勿論先生も遠路を苦ともせずにお越し下さいました。その頃はまだまだお元気でした。お写真の通りです。しかしこの翌年が最後のご出席でした。それまでは、先生が欠席の「中京工芸会の総会」は何回あったことでしょうか。会員の方々に喜んで頂いており、先生の意も大切に、「中京工芸会」の「灯は消さない」ということを当会の下山田会長 (昭23年 M科卒) と述べました。これが残された私達の役目と思っております。謹んで先生の御冥福をお祈りいたします。(中京工芸会副会長)



中京工芸会40周年記念総会 (平成15年10月)

津久井先生と築地工芸会

荒井 拓哉 (昭35・D卒)

津久井先生と最初に親しくお話ししたのは、やはり箱根の「峠の茶屋」での懇親会でした。それから永い月日が経ち、2年前に私が会長をお引き受けすることになり、津久井先生とお付き合いもより深くなりました。

津久井先生の同窓会に対するお気持ちの本音が解ったのは、先生がご病気が入院されてからです。東京医科歯科大学病院に入院されている時にお見舞いに伺うと、監事さんと一緒に来なさいとおっしゃるので、改めて中田さんと一緒に伺いました。すると、入院されている間中、一所懸命考えられた同窓会の引き継ぎ事項を説明して下さいました。ご病気の先生にいつまでもこんな心配をかけてはいけないと思い、私の同窓会に対する気持ちが変わりました。

その後、青梅の慶友病院に移られてからも、病院から週に一度は手紙を下さいました。私の会長の任期終了が近づいたある日、慶友病院に行き、病室に伺いました。今考えるとそれはお亡くなりになる三か月前だったのですが、その日も同窓会のことを心配されていたのです。

これからは私たちが同窓会の灯を消さないように頑張ります。どうか天国でゆっくりと見守っていて下さい。本当に永い間ありがとうございました。

感謝と哀悼の思い

岩井 昌代 (昭39・D卒)

津久井先生のこと、やはり、今さらに、寂しく残念に思われます。

本当に永い間、築地工芸会のために、がんばってくださいました。

私の個展にもよく足をお運びくださいました。

感謝と哀悼の思いでいっぱいです。4月の末から久しぶりの個展ですが、津久井先生には天国から「又、やるの！」って言われそうです。

津久井先生は工芸同窓生の絆

神山 隆夫 (昭43・A卒)

津久井先生には43年間お世話になりました。

工芸卒業後職員として勤め、同窓会の事を少しずつ手伝うようになったのも津久井先生の姿を見て当然と感じてきました。幾度となく関西工芸会、中京工芸会、静岡工芸会にお供しました。

津久井先生は全国にいる工芸同窓生の絆を常に気遣い何時の時代にも太く流れる工芸魂を一番の誇りに生き生きと築地工芸会の舵取りをしてくださいました。工芸高校の歴史を一番長く見て来られたのも先生です。80・90・100周年誌の他に自主出版され工芸学校・夜間制度80年の足跡に残された数々が母校愛の表れです。

毎年夏に行われた箱根塔ノ沢「峠の茶屋」のラウンジでいつも優しく理事さんを迎えてくれた笑顔が鮮明に思い出されます。

津久井先生を偲んで

丸山 士郎 (昭43・A卒)

89歳で亡くなられた津久井先生。人生は一度、その人生の大半を「築地工芸会事務局」の職に費やされ、これに全うされた津久井先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

生涯を通じて取り組み続ける仕事を指して「ライフワーク」と言いますが、この「ライフワーク」を質的に二分してみれば、己の好むところの仕事や天職と言われるような分野で生きてゆく場合と、与えられた任務を全うし続ける場合とがあると思います。前者は自己の内部から湧き出でるエネルギーに突き動かされる生き方ですが、後者は主に「使命感」を原動力とした生き方でしょう。このように考えれば津久井先生の歩んだ道のりは明らかに後者。それも尋常ならざる揺るぎない使命感をもって「築地工芸会事務局」の任務を全うされました。先日大阪で「柳宗悦展」を見ましたが、柳宗悦が「民芸」の理念を確立していく生き様はまさに前者であると思います。津久井先生は理化学がご専門と聞いていますが、その理化学の道を歩んでおられたなら

ば、語り継がれる立派な功績を残すことの出来る方であったと思います。今は天国におられて諸先輩と歓談なさっていることでしょうか、どうか事務局の仕事を任される事など有りませぬようにと祈るばかりです。合掌。

(関西工芸会事務局)

津久井先生を偲ぶ

大沼 千尋 (昭45・A卒)

お目に掛かったのは1980年、工芸に勤務した直後のある日、旧校舎の理科準備室であった、白衣を着た恰幅の良い方が津久井先生だった。その後、同じA科卒ということでも好意を持って接していただいた。やがて同窓会の用をお手伝いするようになり今日に至った。この間、多くの事柄やいろいろなOBに巡り合わせていただいた。そして2007年に100周年を迎えた。それまでの先生の口癖は「100周年までは居ないよ……」だったが無事に記念式典を迎えることができた。それに記念誌の発行に至り大変喜んでいらつしやった。

定時制の理科教諭を退職後のこれまで、校門横の100周年記念のステンドグラスができるころまでお宅から定期的に工芸に通う日々で同窓会のために大変尽力をされていた。同窓会の手伝いといえば、総会の時の受付前では参加者の顔が遠くに見えるとお名

前を呼ばれ受付のチェックが大変助かったことも昔の思い出になる。同窓会はとても大きな宝を失った。工芸高校のために長い間ありがとうございました。また、お疲れ様 合掌。

(金工作家・元A科教諭)

想い出

高木 実 (昭48・A卒)

津久井先生の授業は学校案内から始まった。工芸高校の誕生の経緯、校章の謂れなどの説明の後、校内見学があった。仕立下しのスーツの上に白衣を羽織った端正な姿の先生は終始和やかであった。工芸への思い入れ深く、生徒が好きなんだと勝手に解釈した。後に知ったのだが、生徒の相談事にも真正面から受け止め、不登校の生徒がいれば家に毎日でも迎えに行かれる事もあった。

私が33才の時、金属工芸科の後輩江田家守子と結婚する事になった。媒酌は津久井先生にと前々から考えていましたから、担任の石川



津久井先生の媒酌で結婚

■ 校友活躍の一端 ■

先生と理科準備室にお願いに伺った。「いいですよ」と一言。快諾していただきました。打合せの為先生のお宅にあがるとお祝いの席が用意してありました。式の当日は先生の段取りどおり進行し、滞りなくお開きとなりました。結婚から25年後、先生から電話が有

◇ リポ ト ◇

り、結婚式のお祝いをするから来るように言われた。その頃は先生も奥様もとてもお元気で、新宿の料理屋で四人、楽しい一時を過ごさせていただきました。89才とは言え、津久井先生が逝かれた事は唯々、無念の極みであります。合掌。

次の方々の個展・出品等がありました。

◎ 個展

松原 伸生

藍形染展

(昭和59・D卒)

荻窪・ギャラ

リー歳時季

◎ 出品

第52回東日本伝

統工芸展

日本橋三越本店 新館7階ギャラリー

・ 染織

松原 忠氏 (昭和57・M卒)

藍形染着物「爽実」

松原 伸生氏 (昭和59・D卒)

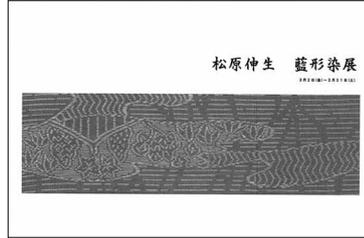
長板中形着尺霞葛文

・ 金工

田口 壽恒氏 (昭和34・A卒)

人間国宝

南簾建水



神山隆夫氏作品

桂 盛仁氏 (昭和39・A卒)

人間国宝

薫炉「滯標」

大沼 千尋氏 (昭和45・A卒)

切嵌一輪挿「游」

グラストレック ガラス工芸教室展

2012

銀座・ギャラリー悠玄

神山 隆夫氏 (昭和43・A卒)

中山・保立特許事務所

弁理士 中山 清 (昭33年M科)

〒164-0003 東京都中野区東中野2-2-3
ボークビル3階
電話 03-5389-7112
FAX 03-5389-7135

真空成膜法の一つスパッターを主に使用して半導体・FDP産業の分野で仕事をしています。主な製品は液晶用大型 blanks・PDP用大型 blanks と半導体用 blanks です。

クリーンサアフェイス技術株式会社

代表取締役 服部 功 全A12 (昭35)

〈本社工場〉〒253-0113 神奈川県高座郡寒川町大曲3-20-29

TEL 0467-74-1935 FAX 0467-75-1131 URL: http://www.cst-h.com

〈江刺工場〉〒023-1101 岩手県奥州市江刺区岩谷堂宇松長根30

TEL 0197-35-6636 FAX 0197-35-0968

ic用各種タイパーカッター
各種専用機 設計製作

(有) 神戸自動機製作所

代表取締役 神戸 道夫
定M13 (昭36)

〒270-0156 千葉県流山市西平井1031-7
TEL.0471-59-6201 FAX.0471-59-5127

真空から高圧まで
配管部品

MAK

株式会社 マキザキ

本社 ● 〒146-0082 東京都大田区池上3-22-20
TEL. 03-3752-2671 (代)
FAX. 03-3752-4017

工場 ● 〒962-0402 福島県須賀川市仁井田大谷地311

● プラスチック製品の
企画・開発・設計・製造

株式会社 新 上
シン ジョウ

取締役会長 曾我部 上
全A7 (昭30)

〒277-0814 千葉県柏市正連寺90
TEL.0471-33-0471 FAX.0471-33-0475

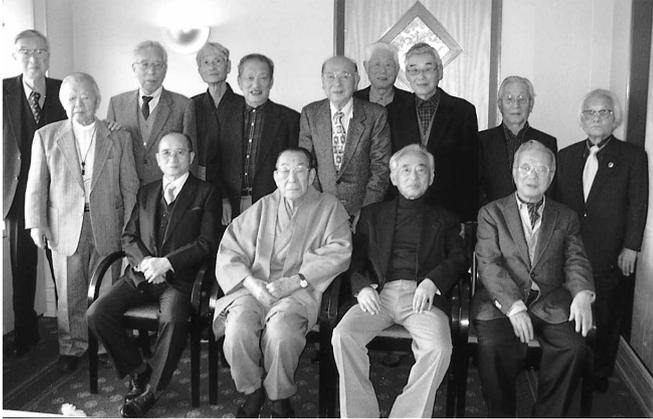
● クラス会

● 竹萌会 (昭和24年本科A科卒・昭和25年全日制A科卒の会)

第62回 竹萌新年会も好天に恵まれ、平成24年1月15日(日)にアサヒビル吾妻橋ビル21階のレストランアラスカで行い、無事終了することが出来ました。

昨年は芳賀君の訃報と常連の小嶋君と樋口君の欠席がありました。その他の全員14人の出席で宴会時間をはるかにオーバーする楽しい時を過ごすごとが出来ました。

スカイツリーの外観がすべて出来上り、会場から一段と目につきました。来年はどこにするかまだわかりませ



竹萌会 (昭和24年本科A科卒・昭和25年全日制A科卒の会)

んが、全員再会することを楽しみにしております。(田村宗義)

● 紫風会 (昭和25年M科卒)

紫風会が会報「こうげい」に掲載されるのは4度目になります。

還暦祝(1991年) 28名、古稀祝(2001年) 14名、喜寿祝(2009年) 12名、傘寿祝(2011年) 10名と毎回少しずつ参加者が減って、誠に寂しい限りです。今回も、元気で必ず参加していた河村誠君が、一年前から連絡がとれなかったのですが、傘寿の会合と時期を同じくして逝去されたことを会報の訃報で知り、驚いた次第です。また、本会の幹事としてご尽力いただいた樋熊君と二本松君も、20



紫風会 (昭和25年M科卒)

10年に他界されました。謹んで三君の霊に本文を捧げると共に、紫風会の今回の掲載は米寿祝になるかも知れませんが、そので連絡をお待ちしています。(七里輝雄)

● 昭和32年全日制D科卒クラス会

平成24年2月21日(土)、自由が丘に近いレストラン『トラットリア・ロアジ』にて、午後2時より「春のD6会」を開催しました。

D科6期生の私たちは、会の名称をD6会として2、3年に一度、クラス会を開いているのですが、今回は一昨年他界された担任の「三好二郎先生を偲ぶ会」をテーマに、多くのクラスメイトに参加を呼びかけました。



昭和32年全日制D科卒クラス会

その結果、遠くは新富士市、郡山市からも駆けつけてくれた級友がおり、賑やかなクラス会となりました。

都立工芸の3年間とお世話になった三好先生の思い出に、久しぶりの級友一四名は尽きる事の無い会話に花を咲かせました。合掌 (上口睦人)

● 昭和34年全日制M科卒クラス会

本年3月7日(水)、水月ホテル鴈外荘にて、クラス会を実施しました。参加者は17名、併せて友人誌「曙光」2号発刊記念会も行いました。乾杯は何時も元氣な南君の音頭で宴会を開始。「曙光」のクイズの正解者に関川編集長から賞品が配られました。酔う前に、工芸会理事の松井君から「築地工芸



昭和34年全日制M科卒クラス会



竹内先生を囲んで 千葉県館山市「花しぶき」 2011.11.13

昭和35年全日制M科卒・卒業50周年記念クラス会

念クラス会を昨年11月13日〜14日の一

●昭和35年全日制M科・卒業50周年記念クラス会

会」の現状報告、会費未納者への督促等が有りました。昼間の酒で酔いも早く、古稀を過ぎると、皆、話が上手になり、感動する話もありました。肥沼君のリードで「暁光の歌」の合唱があり、宴もたけなわですがお開きの時間が迫り、早川君か南君か梶川君か誰かが締めを行いました。幹事も酔いすぎて失念しました。今回も松井君がスカイツリー業務開始記念ビールを全員にお土産とし持たせ、お開きと致しました。(幹事 木下幸秀)



東芝万年会 平成23年度総会

インシティの中華料理「ジョーンズシヤンハイ」にて東芝万年会総会を開催

●東芝万年会 平成23年度総会開催

泊2日で、体育の竹内芳勝先生をお招きして南房総館山「花しぶき」で開催しました。総勢24名が参加し、三々五々宿に集まった素敵に年輪を重ねた初老の紳士達は、温泉でくつろいだ後、宴会場での板前さんの包丁さばきに目が釘付けになり、鯛や平目等の活き作りや舌鼓を打ちながら50年をタイムスリップしていました。翌日は市内観光・みかん狩り組と館山CCでのゴルフコンペ組に分かれて旧交を温め、流れ解散となりました。(金井昭三)

- 片山 一郎氏 昭13・M卒 (23・12・30)
- 津久井正幸氏 昭17・A卒 (24・2・2)
- 原尻 一雄氏 昭17・M卒 (23・3・11)
- 今井 三郎氏 昭22・F卒 (23・8・20)
- 芳賀 孝氏 昭25・A卒 (23・10・17)
- 田口 和夫氏 昭34・M卒 (23・10・6)
- 清水 暖氏 平7・A卒 (23・1・30)

前回の会報154号以後、本会宛正式にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申しあげます。()内は逝去された日です。

訃報

記念写真を撮り、来年も元気に再会することを約して散会致しました。(幹事 昭和38年・D科卒 松本孝)



中京工芸会 節分会

津久井先生のご訃報に接し、中京地区よりお悔やみ申し上げます。中京工芸会副会長 五反田稔 (昭和35・M卒)

●中京工芸会節分会

恒例になりました「中京工芸会節分会」を、2月3日(金)17時30分〜名古屋料亭「大森」にて開催しました。「女将」「若女将」の変装も恒例ですが、1緒に楽しみました。有志では有りますが、今年の総会、来年の50回の節目の総会などを相談しました。総会とは違った「堅苦しさのない集い」でした。今年の総会は10月21日(日)13時〜名古屋料亭「大森」ということを確認しました。会員の方には別途案内をお送りしますが、今直ぐ、予定に入れて頂きたいと思えます。

橋本幸男先生

井上 稔 (昭30・A卒)

4年間担任して頂いた橋本幸男先生が昨年10月23日に御逝去された。行年86歳、28・29日の代々幡斎場の御通夜・告別式に、クラス会幹事の野澤忠義君・高橋則弘君・私の3人で弔問に伺った。

終戦の翌年、先生は横浜工専(現横浜国大)を卒業され都立工芸に来られた。デザイン・彫金・鍛金など主要科目はいずれも美校(現芸大)出の中では異色であったが、私達はホームルームをはじめ、金属材料、加工法を、実習は鍍金(メッキ)を教わった。

金属材料は教科書があったが、加工法は無く、先生が黒板いっぱい書かれるのを、私達は夢中でノートに書いた。蠟型鑄造は仏像などを精密に作る加工法だが、説明文といくつもの図を書いて下さった。

まだ戦後の混乱の時代、教えられる先生もご自身の学ばれた専門と離れていたことで、勉強されて教えられたと、50余年経たクラス会でお話された。

2年生の新学期に写したクラスの写真がある。前列中央にスーツ姿で先生がきちんと座って居られるが、その日は雨降りで生徒は皆ゴム長で写っている。腹を空かし、焼け残りの学生服姿は、貧しく辛かった頃を思い出す。

8年前、傘寿のお祝い品に野澤君の

彫金の作品をお贈りした。5年前のクラス会では、鍛金でお作りの龍を拝見し、謡曲をご披露され、終わりに皆で歌う校歌の指揮をとられた。5月中旬頃御奥様から、脳卒中のリハビリ専門病院に入院中の連絡を頂き、中央線阿佐ヶ谷駅近くの病院にお見舞に伺ったが、会話は不可能であった。今年はクラス会を開催して、級友に報告し皆で先生の御冥福をお祈りしたいと思っている。

合掌

「投稿を歓迎します。」

*皆様の個展・展覧会出品・受賞、新聞で紹介された等、ご活躍の様子をぜひお知らせ下さい。

作品の写真、案内状、新聞の切抜き等もできるだけご提供下さい。

*クラス会の様子、クラス名簿等もお知らせ下さい。

●締切・原則として、2月末、7月末、10月末となっております。

●原稿をデジタルデータで作成されている方は、メール添付又はCDの郵送等で、データをお送り下さいますと、会報作成のコスト削減となります。もちろん、従来通りの原稿送付でも、歓迎です。

郵送先：築地工芸会(工芸高校の住所)
メール送付先：taquya@nifty.com

▼百周年記念誌のご購入を!

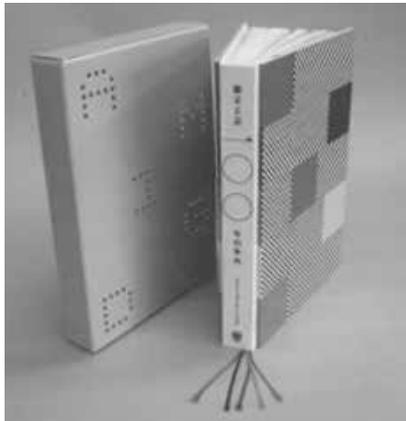
『都立工芸一〇〇年の歩み』

◎頒布価格 6000円(送料共)

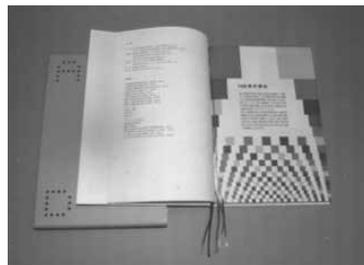
◎ご送金 成るべく同封振替用紙で

第44回造本装幀コンクール 日本書籍出版協会理事長賞 受賞

記念誌『都立工芸100年の歩み』



ケース(左) 本体(右)



学校編 扉(右)



生徒編 P科



クモンビーガーデン養蜂組合
東京店

自園採集・直売店

蜂蜜・ローヤルゼリー・花粉お届けします

〒175-0082 東京都板橋区高島平5-13-17

電話 03(3975) 5 8 1 1 番

担当 西村征一 (昭.36定M)

デザイン/開発/設計/試作

久米工業デザイン研究所

久米清司 全A4(昭27)

〒175-0083 東京都板橋区徳丸6-2-7

TEL.03-3932-4593

FAX.03-3932-4593

E-mail:kumekys@yahoo.co.jp

- プレス標準金型 ●自動選別機
- クリーンパンチ ●精密治工具

株式会社

タクモス精機

取締役 相談役 川上 哲 男

定M13(昭36)

〒369-1211

埼玉県大里郡寄居町赤浜1174-3

TEL.048-582-2271

母校だより1

コンクール等の入賞者・成績

全日制

ART CRAFT

- ガス溶接技能講習終了証 24名
- アマダ第24回優秀板金製品技能フェア(学生作品の部)
- 優秀賞 2年 「切嵌象嵌透かし動物小箱」 芦田音緒 他9名
- 奨励賞 旧3年 伊佐奈都美
- 鳥越みずほ
- 廣瀬 奈々
- 山野辺友理

MACHINE CRAFT

- ジュニアマイスターゴールド
- 3年 北嶋勇斗 木村宗一郎
- 2年 緑川 凌
- ジュニアマイスターシルバー
- 2年 中島玲香 佐々木彩
- 危険物取扱者乙種
- 第1類 3名
- 第2類 7名
- 第3類 3名
- 第5類 12名
- 第6類 10名

- ガス溶接技能講習終了証 29名
- アーク溶接特別教育終了証 7名
- アマダ第24回優秀板金製品技能フェア(学生作品の部)
- 銀賞 「雷門」旧3年協同作品

INTERIOR

- 第3回高校インテリア科デザインコンテスト
- 優秀賞 2年 荒井 律香
- 第46回建築CAD検定試験
- 2級 8名
- 3級 15名

GRAPHIC ARTS

- 2011デジタルアートグランプリ
- 中高生静止画
- 入選 3年 小川 由幸
- 矢作 恭子
- 第55回全国学芸サイエンスコンクールポスター部門
- 旺文社赤尾好夫記念賞
- 入選 3年 会田美美子
- スチール缶リサイクルポスターコンクール
- 佳作 3年 居林 未季
- 第27回防災ポスターコンクール
- 入選 2年 石田 彩菜
- 佐藤由伽理
- 本郷 瞳

- 高校生グリーディングカードデザインコンテスト
- 準グランプリ 3年 手島 知美

DESIGN

- 第4回高校生アトライター大賞
- 優秀賞 2年 植竹 茉奈
- 塚田 涼香
- 平成23年度全国金属工芸教育研究会会長賞 4年A科 篠塚 道久
- 資格試験
- 第21回パソコン利用技術検定
- 2級(表計算) 2年A科 5名
- 第22回パソコン利用技術検定
- 3級(ワープロ) 1年A科 8名
- 第22回パソコン利用技術検定
- 2級(表計算) 1年M科 6名

- 色彩検定
- 2級 G科 2名
- I科 1名
- 3級 G科 14名
- I科 8名

部活動報告(定時制)

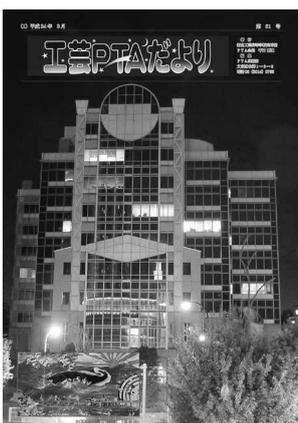
- バトミントン部
- 「都立工業高校大会」
- 男子シングルス 第3位 鈴木 勝

柔剣道部

- 平成23年度「都立工業高等学校生徒スポーツ大会」
- 第21回剣道大会
- 女子個人の部 第2位 土屋 香奈
- 第3位 今泉 梨紗

卒業生

- 第49回技能五輪全国大会
- 家具部門
- 銀メダル 平石恵実
- (平成22年度I科卒)



定時制PTA発行「工芸PTAだより」



全日制PTA発行「工芸」

母校だより2

母校人事

平成24年度を迎え、4月1日付で次の人事異動がありました。

諸先生には熱心の後輩のご指導を頂き、本当に有難うございました。事務部門の先生には本会の運営面でも大変お世話になり感謝しております。

就任された先生方、後輩のご指導と、同窓会をよろしくお願い致します。

○退職(敬称略・順不同)

- 山添 俊幸 数学(定年退職)
- 井上 淑子 A科(任期満了)
- 新宮富美子 英語(定年退職)
- 其部 昇 英語(定年退職)
- 小林 一清 M科(定年退職)
- 染谷 嘉彦 経営企画室長(定年退職)
- 小林 茂子 経営企画室(定年退職)

○転任(敬称略・順不同)

- 小倉 良之 副校長(西園高校付属中学校)
- 前田 平作 副校長(教職員研修センター)
- 北林 峻 国語(荒川工業高校(定))
- 柳井 隆之 理科(神代高校)
- 村田 律子 理科(駒場高校)
- 中根 順造 M科(六郷工科高校)
- 小川 寧山 社会・公民(飛鳥高校(定))
- 川島 寿也 経営企画室(上野高校)
- 南 友和 経営企画室(教育庁)

佐野 一恵 経営企画室(城東高校)

○就任(敬称略・順不同)

- 原田 明 副校長
- 守屋 文俊 副校長
- 松山 央 国語
- 吉田 典文 数学
- 神庭 郁 理科
- 真鍋 穂文 理科
- 三好 玄也 M科
- 川里 勝己 社会・公民
- 井上 優子 英語
- 松並 滋 英語
- 金澤 邦昭 M科
- 村田 行勇 経営企画室長
- 伊尾喜湧介 経営企画室
- 佐藤 健子 経営企画室
- 阿部 裕香 経営企画室
- 鈴木 美保 経営企画室

平成23年度卒業生

	科	男女		計
		男	女	
全 日 制	A	5	31	36
	M	12	22	34
	I	10	23	33
	G	4	32	36
	D	2	32	34
	計	33	140	173
定 時 制	A	8	9	17
	M	12	0	12
	I	4	7	11
	G	4	23	27
	計	28	39	67

●平成23年度 卒業式

平成24年3月9日、母校において平成23年度卒業式が行われました。

昨年の卒業式は3月11日で、全日制の卒業を祝う会の最中に、東北・関東大震災に襲われ、定時制の卒業式は3月22日に改めて行われました。

本年は無事、全日制173名、定時制67名の卒業生が元気に巣立っていました。

●2011卒展

平成24年3月3日～5日、東京都秋葉原庁舎展示室において、「2011卒展」が開催されました。

A科は、鍛金・彫金・鍍金・ジュエリー等、M科は、ウインドチャイム・铸芸・機械造形等、I科は、住宅模型・家具等、G科は、広告・パッケージ・銅版画等、D科は、グラフィックデザイン・プロダクトデザイン等の作品により3年間の成果を展示しました。来場者はレベルの高い作品を熱心に見ていました。



DMイラスト：3年M科 大西 藍